

# 株式会社今仙電機製作所

2023年3月期第2四半期決算説明会

2022年11月24日



## イベント概要

---

[企業名]	株式会社今仙電機製作所		
[企業 ID]	7266		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期		
[日程]	2022 年 11 月 24 日		
[ページ数]	43		
[時間]	15:30 – 16:13 (合計：43 分、登壇：29 分、質疑応答：14 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	145 m <sup>2</sup>		
[出席人数]	23 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役社長執行役員	櫻井 孝充 (以下、櫻井)	
	取締役執行役員	堀部 修一 (以下、堀部)	
	取締役執行役員	宮本 秀幸 (以下、宮本)	

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員

井上 達嗣（以下、井上）

---

**サポート**

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 登壇

---

**司会**：お待たせ致しました。定刻となりましたので、ただいまから、株式会社今仙電機製作所様の決算説明会を開催いたします。

今回の説明会は、会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインと併せたハイブリッドの形式で開催させていただきます。

初めに、会社からお迎えしている4名の方をご紹介します。

まず、代表取締役社長執行役員の櫻井孝充様です。

**櫻井**：櫻井です。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。次に、取締役執行役員の堀部修一様です。

**堀部**：堀部です。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。次に、取締役執行役員の宮本秀幸様です。

**宮本**：宮本でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。次に、執行役員の井上達嗣様です。

**井上**：井上でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：よろしくお願いいたします。

本日は社長の櫻井様と取締役執行役員の堀部様からご説明いただくこととなっておりますが、ご説明が終わった後、まず、会場からの質疑応答の時間といたします。そのあとに、今回オンラインでご参加されている方からのご質問をお受けする予定です。頂戴した質問を読み上げ回答させていただきます。

それでは櫻井様、堀部様よろしくお願いいたします。

**櫻井**：皆さん、こんにちは。株式会社今仙電機製作所、社長の櫻井でございます。本日はご多用中のところ、当社の2023年3月期第2四半期決算説明会にご出席たまわりまして、まことにありがとうございます。まずは初めに日頃より今仙製品をご愛顧いただいておりますお客様をはじめ、私たちの取り組みを支えて下さるすべてのステークホルダーの皆様方に深く感謝申し上げます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ただいまより、当社の2023年3月期第2四半期決算の概要、および、2023年3月期通期業績見直しのご説明、続きまして中長期ビジョン、株式関連についてご説明申し上げます。

なお、決算の内容や中長期ビジョンの内容につきましては、第2四半期の決算発表を行いました11月7日以降、当社のホームページ上で説明資料の開示、説明動画を配信しておりますので、本日の説明は要点を絞っての説明とさせていただきます、先日公表いたしました電子事業に関する新しい取り組みの内容、および本日公表しました、株主還元策の内容についてしっかりと説明させていただきたいと思っております。ご了承願います。

それでは初めに、業績に関するご説明につきまして、グローバル経営事業本部取締役執行役員である堀部からご説明申し上げます。

堀部さんよろしく申し上げます。

## 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要



Challenge to New Imasen

単位：百万円	前期 (21/9期)	当期 (22/9期)	増減額	増減率
売上高	43,270	45,859	+2,589	+6.0%
営業利益	238	▲1,137	▲1,375	—
経常利益	583	73	▲510	▲87.5%
当期純利益	▲63	▲562	▲499	▲792.1%

為替

USD 前期：107.82円 → 当期：123.14円  
CNY 前期：16.67円 → 当期：18.97円  
THB 前期：3.50円 → 当期：3.65円

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

4

**堀部：** こんにちは。グローバル経営事業本部を担当しております堀部と申します。私から2023年3月期第2四半期決算の概要についてご説明させていただきます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



4

連結売上高におきましては、半導体供給不足並びに中国におけるロックダウンの影響が大きく、主要得意先の自動車生産台数は前期と比べ3%減少いたしました。

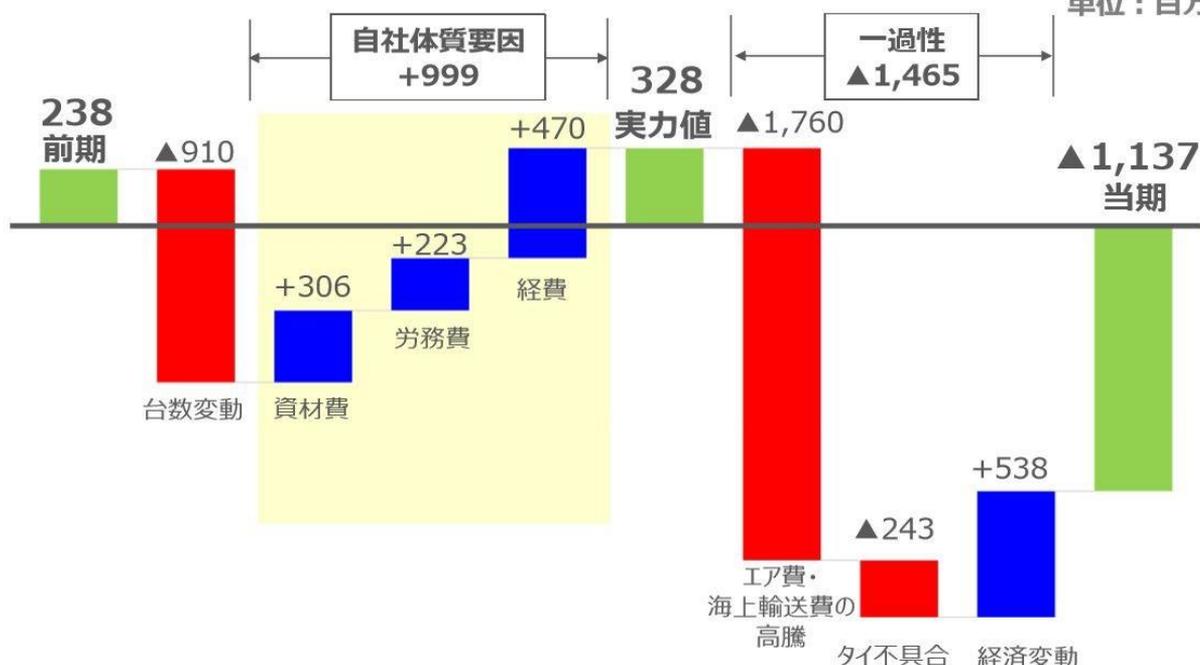
一方で、為替の影響に伴いまして増収となり、売上高は前年同期に対し6%の増加となる458億5,900万円となりました。利益に関しましては、営業利益は11億3,700万円の損失となりました。経常利益は為替差益の影響などにより7,300万円となりましたが、当期純利益に関しましては法人税などにより5億6,200万円の損失となりました。

## 2023年3月期 第2四半期 営業利益



Challenge to New Imasen

単位：百万円



経費改善に努めたものの北米向けの海上輸送遅延に伴うエア費用の発生および世界的な海上輸送費高騰により営業損失となった

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

5

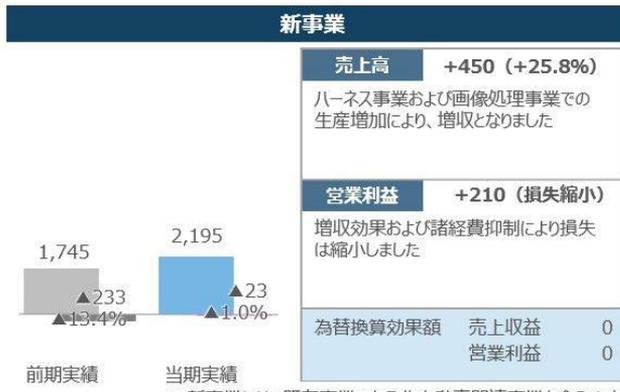
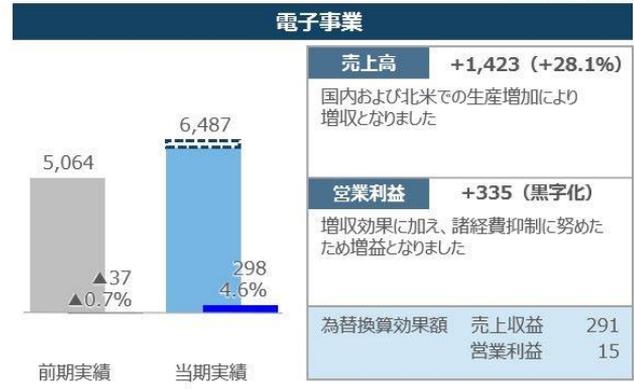
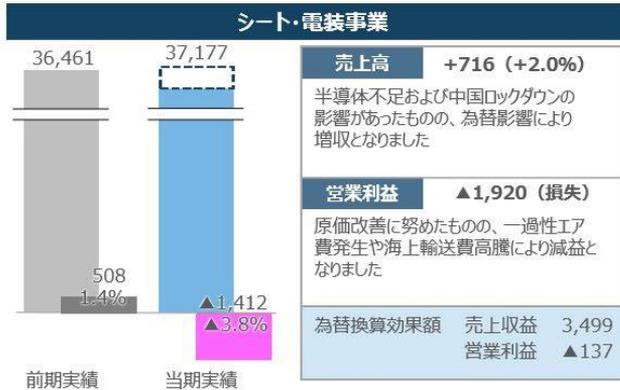
続きまして、営業利益の前期からの変動要因をご説明させていただきます。

得意先の生産台数減少に伴う悪化影響はあるものの、労務費改善、経費抑制など、自社の体質改善にて9億9,900万円の改善を行っております。それに対して、為替に伴う良化はあるものの、北米向けの海上輸送遅延に伴うエア費用の発生、世界的な海上輸送費の高騰、加えて、タイ拠点における不具合発生などにより、前期に対し11億3,700万円の営業損失となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

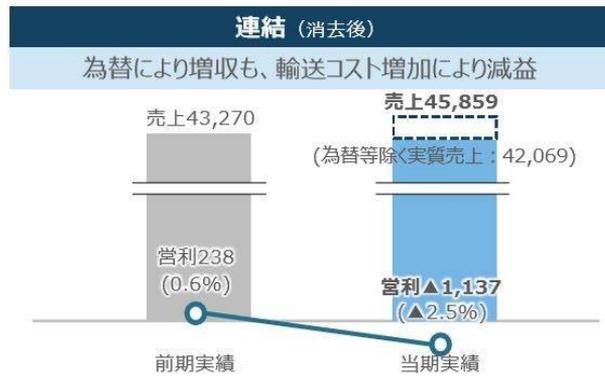




※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。  
©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

事業別の利益面において、シート・電装事業は一過性で損失となっておりますが、電子は増収効果に加え、体質改善により黒字化となっております。

(単位：百万円)



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

7

地域別セグメントにおいて、日本は体質改善の効果により増益となったものの、北米地域での一過性の輸送コストの発生、アジア地域での中国ロックダウン、タイ不具合の発生などの影響により減益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：百万円)

設備投資			
	前期 (21/9期)	当期 (22/9期)	増減額
国内	1,221	545	▲ 676
北米	136	229	92
アジア	544	344	▲ 200
合計	1,901	1,117	▲ 784

&lt;当期の主な投資内容&gt;

- ・国内  
主に**電子事業**において機器・ソフトウェアへの投資
- ・北米  
新製品立ち上がりと**生産自動化**への投資
- ・アジア  
新製品立ち上がりへの投資

減価償却費			
	前期 (21/9期)	当期 (22/9期)	増減額
国内	956	647	▲ 310
北米	158	186	27
アジア	574	587	13
合計	1,689	1,419	▲ 270

- ・国内  
前期において減損処理を行った影響により減少
- ・北米、アジア  
前期において新規車種立ち上がりと生産移管への投資により増加

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

8

設備投資におきましては、国内では主に今後拡大する電子事業において、試験装置などの投資、シート事業の北米においては新規立ち上げなどにあたり、ロボットを活用した投資を行っております。

減価償却費に関しましては、北米およびアジアにおいて増加はあったものの、前期において国内にて減損処理を行ったことに伴い、2億7,000万円減少して14億1,900万円となっております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

単位：百万円	前期実績 (22/3期)	修正予想 (23/3期) (11/7開示)	増減額	増減率
<b>売上高</b>	85,155	99,500	+14,345	+16.8%
<b>営業利益</b>	▲70	▲650	▲580	—
<b>経常利益</b>	616	620	+4	+0.6%
<b>当期純利益</b>	▲1,210	▲730	+480	—

	前期実績	下期予想	通期予想
<b>為替</b> USD	109.90円	135.00円	129.07円
CNY	17.04円	19.50円	19.24円
THB	3.44円	3.60円	3.63円

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

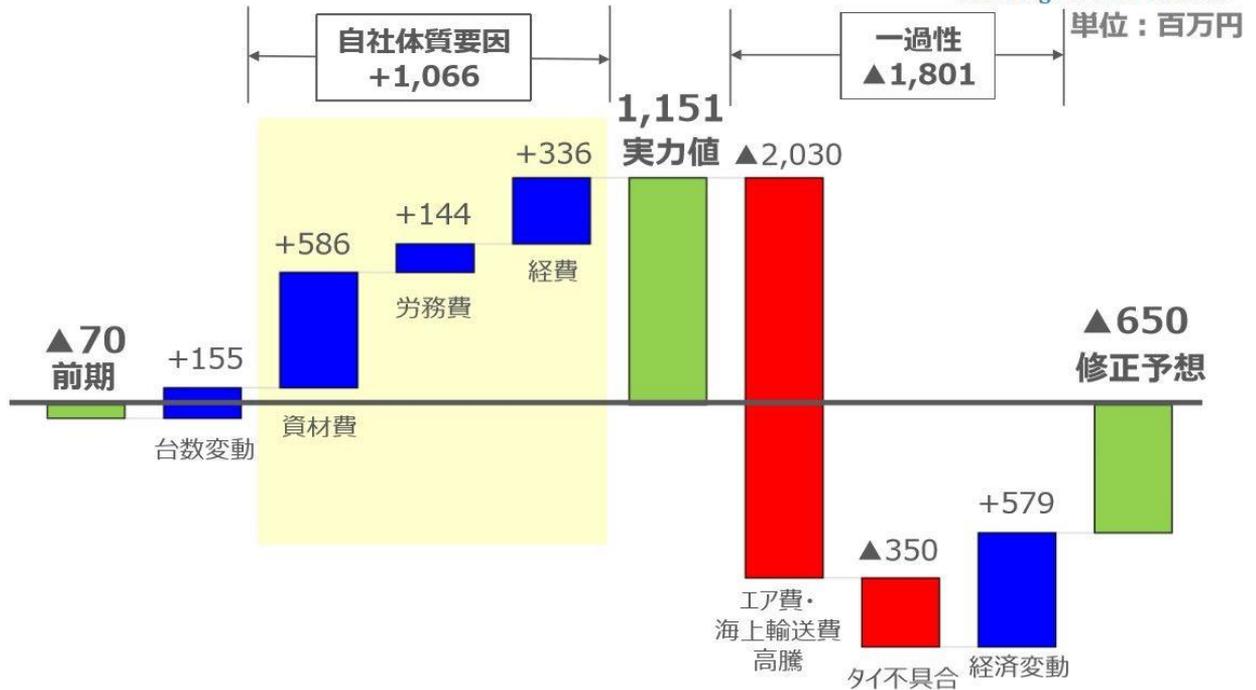
10

続きまして、2023年3月期の連結業績見通しについてのご説明をさせていただきます。

5月12日に発表いたしました予想に対しまして、最新の得意先情報に加え、足元のOEM生産情報を踏まえ見直しをしております。売上高は為替影響もあり、前期比増収、営業利益は前期比5.8億円減少のマイナスの6.5億円となりますが、経常利益は為替影響もあり、前期比で横ばいとなります。純利益は前期特別損失の解消などから損失が縮小をしています。なお、為替におきましては、下期1ドル135円といたしまして、通期では1ドル129.07円としております。

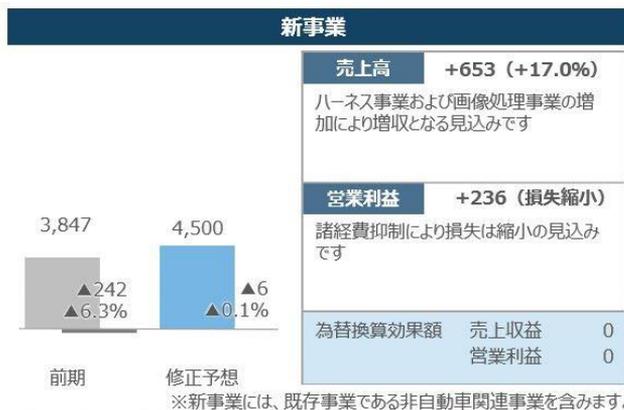
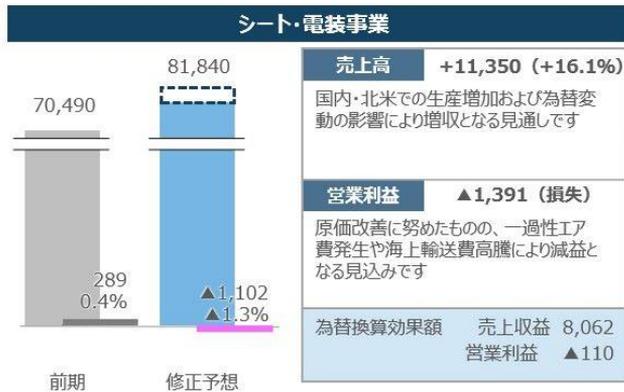
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



生産台数増加と原価低減活動の推進による改善も、一過性の要因により営業損失増加の見込み

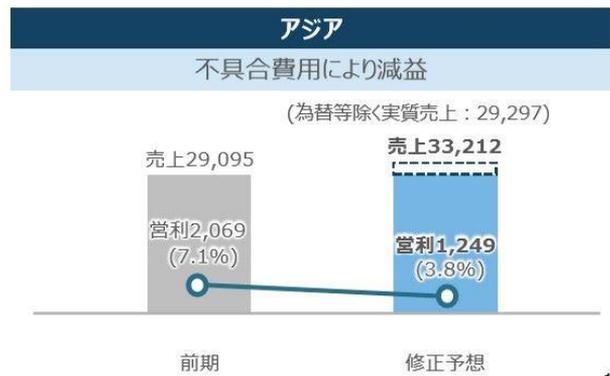
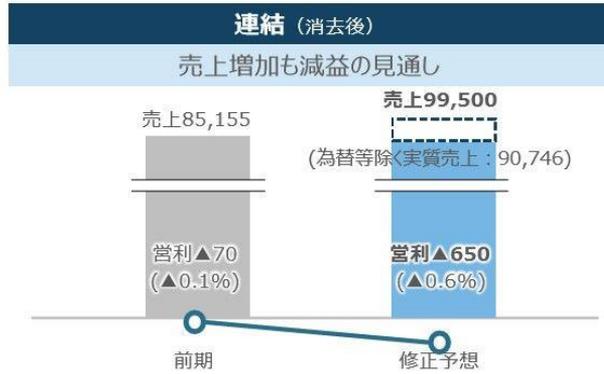
通期の営業利益につきましては、自社体質改善に取り組み、10.6億円の収益改善を見込んでおります。これに対しまして、経済変動による増加はあるものの、海上輸送遅延に伴うエア費用の発生、および、世界的な海上輸送費の高騰、加えて、タイで不具合費用が発生したことに伴いまして、前期比で減益となっております。



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。  
©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

事業別の通期予想においても、売上高構成は大きく変化はしませんが、電子事業が微増しております。

(単位：百万円)



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

13

地域別につきましては、第2四半期と傾向の変化はございません。

以上、業績に関するご説明となります。

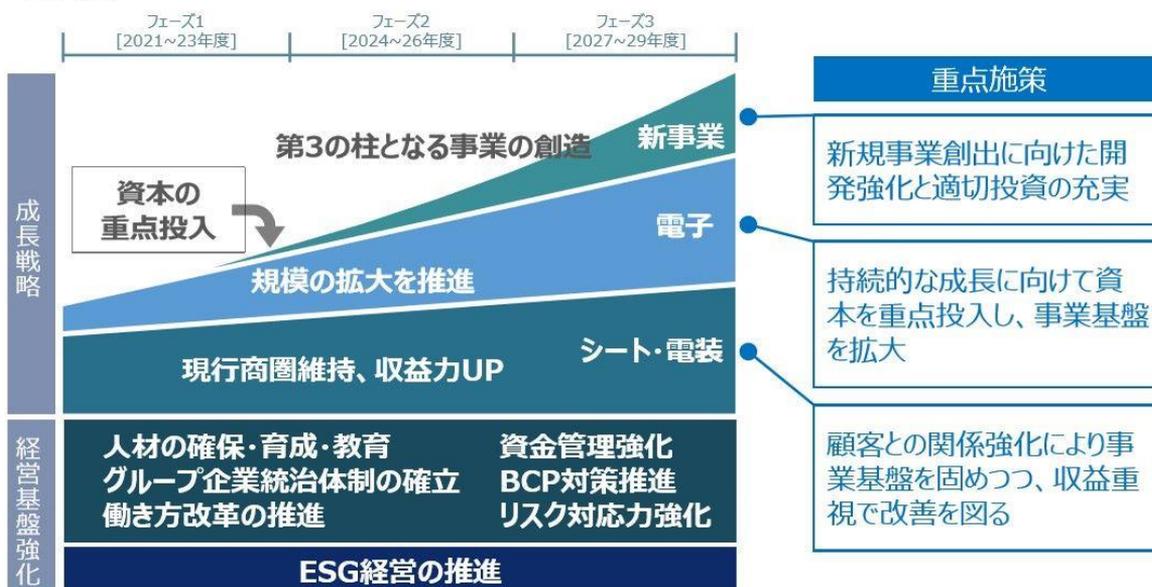
中長期ビジョンにつきましては弊社社長、櫻井よりご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 中長期経営計画2029

2021年4月に新たな「中長期経営計画2029」を策定し、活動をスタート。経営理念も刷新し、「社会に選ばれる企業」になる事で、持続的かつ永続的に成長する企業を目指す。



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

15

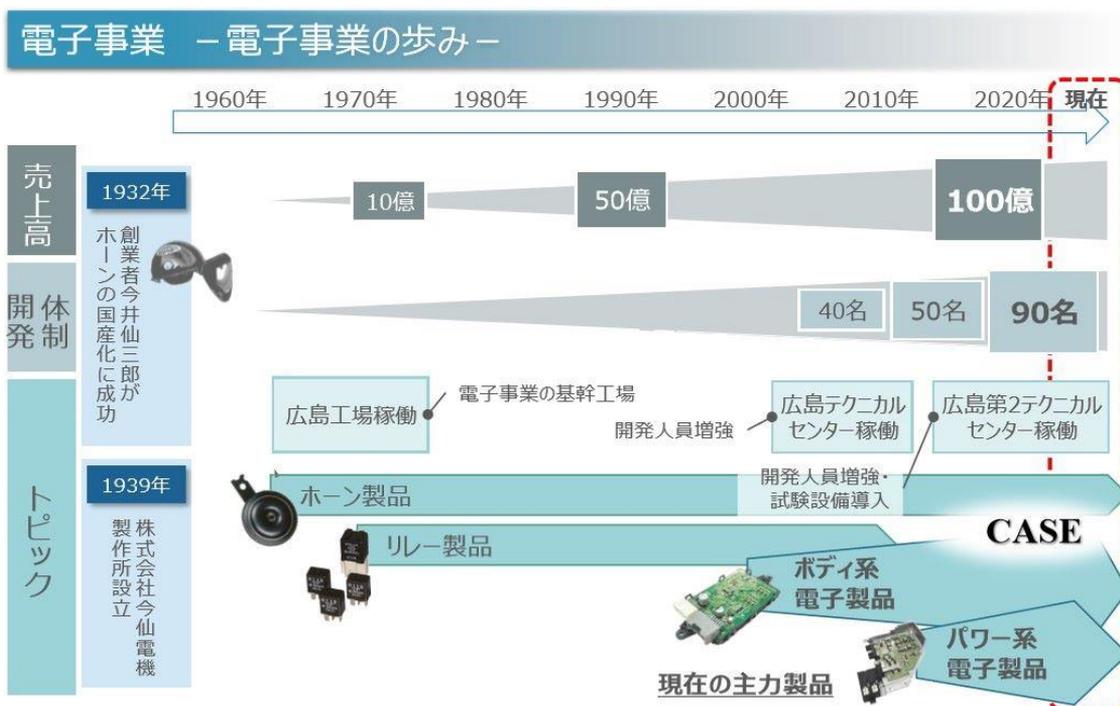
**櫻井**：続きまして中長期ビジョンについて、私、櫻井よりご説明いたします。

現在の事業構成はシート事業に大きく依存した形となっておりますが、自動車業界の電動化の潮流により、柔軟に対応していくためにも、電子事業をシート事業と肩を並べるくらいにまで成長させ、新事業の3番目の柱として経営を支えるべく、新たな事業を創出させます。

また、2年前から取り組んでおります ESG を主眼に置いて経営を推進することで、バランス感のある盤石な企業体質の構築を目指してまいります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ホーン製品、リレー製品で培ってきた開発力、生産技術を基盤とした電子技術を武器にCASE時代へチャレンジ

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

17

では、各事業の事業環境、取り組みについて説明します。

まずは、今後の新たな柱として鍵となります電子事業についてご説明します。当社の電子事業の歩みを振り返ってみますと、1932年に日本初の国産ホーンを生み出し、1939年の会社設立を経て、ホーン製品の拡大、リレー製品の生産と、着実に事業基盤を成長させ、2000年以降はいよいよ、現在の電子事業の主力製品である電子制御製品を中核としてまいりました。

今後は、さらに高度化していく自動車に対し、これまで培ってきた開発力、生産技術力を基盤とし、最先端の電子制御製品で事業拡大に向けてチャレンジしてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電子事業 – 取組み –



独自の新技术によりマツダ車の商品力向上に貢献するとともに、  
電動化の進展に伴う地域の業態変更を支援し、  
当社の飛躍的な成長と持続的な発展の実現を目指す

①合弁会社の設立

- 当社とマツダにて**合弁会社**を設立
- マツダの**車両システム開発力・多変量生産技術力**と、  
当社の**電子技術開発力**を結集
- 今後マツダが市場投入を目指す電動車への搭載を想定した**インバータ等の電動駆動ユニットの関連製品開発**と、  
**生産技術開発**、並びに**地域企業の業態変更の支援**を行う

②電動車向けインバータ共同開発

- マツダのe-Axle構想を支えるインバータの開発に関し、当社、マツダ、ロームの**三社間で共同開発契約を締結**
- ロームは、インバータの小型化を含む、マツダの性能要件を支えるための**SiCパワー半導体モジュールの開発**を担当
- 当社はそのSiCパワー半導体を活用し、**当社独自の高効率化技術を使ったインバータの開発**を担当
- インバータ基幹部品のパワーモジュールを含む共同開発を三社で行うことにより、各社の知見を投入し、**小型・高性能・高効率の電動駆動ユニットの創出**を目指す

マツダ株式会社との電動駆動ユニット開発・生産に向けた協業体制の構築

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

18

こうした取組みの一環として、当社では従来からの電子事業の主要顧客であります、マツダ株式会社様と、同社の手がける電動車向けに、その基幹部品となる電動駆動ユニットの領域にて開発および生産に向けた協業体制の構築に取り組んでいくことについて合意をいたしました。

この協業の目的としましては、当社の持つ独自の新技术により、マツダ様の商品力向上に貢献するとともに、電動化の進展に伴う広島地域の業態変更を支援し、当社の飛躍的な成長と持続的な発展の実現を目指したものでございます。

具体的には、この領域の製品開発および生産技術開発を行う合弁会社の設立と、電動車向けのインバータの開発として、当社とマツダ様に、さらに SiC（シリコンカーバイド）パワー半導体モジュールを担当するローム様を加えた 3 社での共同開発を行うものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

電子事業 – 取組み –

合併会社の概要

名称	Mazda Imasen Electric Drive株式会社 (略称：MIED)
所在地	広島県東広島市八本松飯田2-14-1 ※当社広島事業所内
代表者	玉井 悟 (マツダからの出向)
主な事業内容	車両搭載用インバータをはじめとする電動駆動ユニットに関する技術開発および生産技術開発
資本金	5百万円
設立年月日	2022年8月25日
出資比率	株式会社今仙電機製作所 50% マツダ株式会社 50%
役割	今仙電機、マツダ両社より、開発技術者を出向 マツダ：車両システム観点での制御、搭載設計（バスバー/筐体等）インバータ用パワーモジュール、蓄電池セル等の要素技術開発並びに多種変量生産技術 今仙電機製作所：ユニット設計と評価 / 生産技術の提供、並びに広島地場企業への基板実装、ユニット構成部品のサブアッセンブリー等の生産技術指導

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

19

このうち合併会社としましては、新会社の名称を Mazda Imasen Electric Drive 株式会社と名づけ、通称を MIED としております。当社とマツダ様による対等の出資となっており、両社から開発技術者を出向させることで、インバータをはじめとする電動駆動ユニットの製品開発、生産技術開発に取り組むものでございます。

この会社は当社の広島事業所内にて、昨年5月より稼働を開始しました第2テクニカルセンターの一角を事務所として活動を既に開始しており、代表者はマツダ様からの出向となっております。この会社を通じた開発の役割分担ですが、マツダ様には車両システム観点で車載機器に求められる要求仕様の開発並びに多種変量生産技術を、合併会社は電子デバイス開発、ユニット設計と評価、サプライチェーンの構築、並びに広島地場企業への基板実装、ユニット構成部品のサブアッセンブリー等の生産技術指導を担当することとしております。

サポート

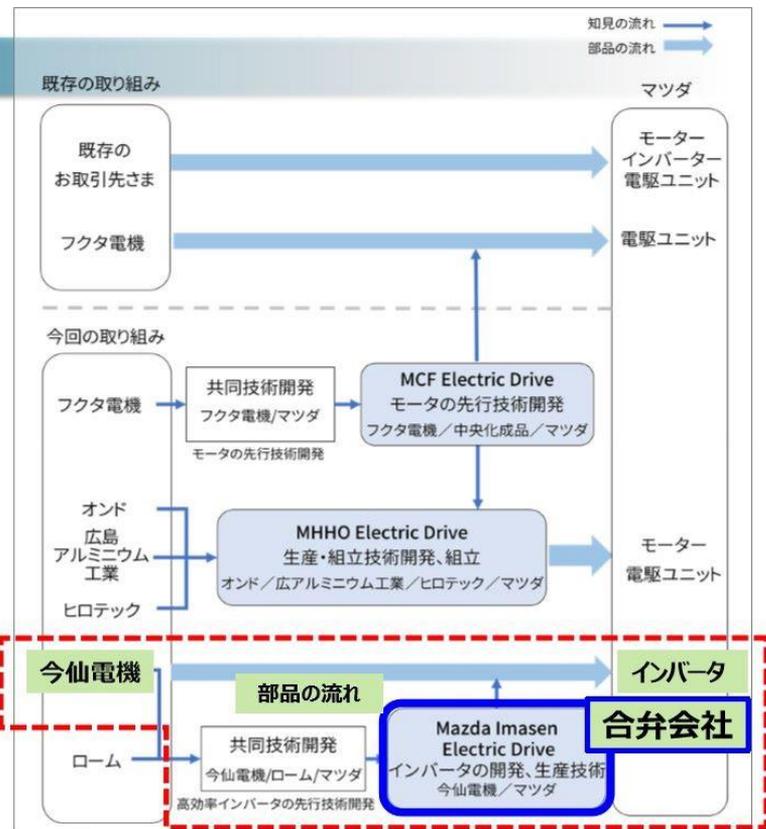
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電子事業 – 取組み –

マツダ株式会社様の  
電動駆動ユニットの開発・生産  
に向けた協業体制の概略

マツダはひと中心の設計思想をもとに、電動車ならではの特性を最大限活かし、心から運転を楽しむことができる走りの更なる進化を目指しています。電動駆動ユニットの基幹部品であるシリコンカーバイドパワー半導体を含むインバーターの開発では、今仙電機製作所とロームと共同開発契約を締結し、さらに今仙電機製作所とインバーターの開発および基板の実装含む生産技術を開発する合併会社を設立しました。(中略) これらの卓越した技術をもつパートナー企業と共創することで、小型・高性能・高効率な電動駆動ユニットの開発を進めてまいります。

(同社 22年11月22日付開示資料より引用)



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

20

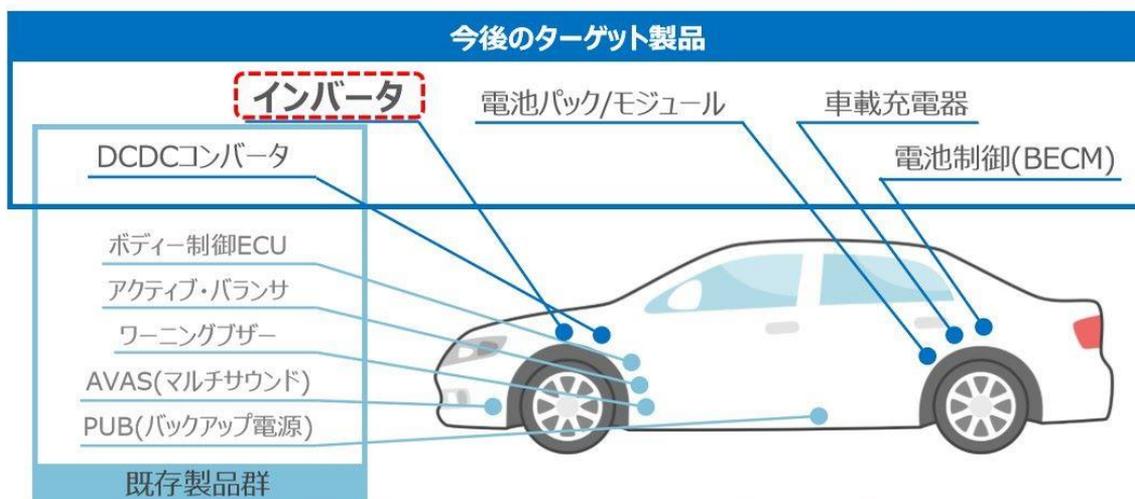
なお、マツダ様におかれましては、同社における電動駆動ユニットの開発、生産体制の構築として、当社を含めました複数の企業、特に広島地場企業との協業体制構築に取り組まれる方針であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電子事業 – 取組み –

電気自動車化の波に乗り主力製品へ



人員増強を含む開発投資を行い製品領域を拡大し、  
2029年度 売上1,000億円を目指す

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

21

その中で、当社はまずはインバータの領域を担当するものであり、合併会社を通じて製品開発を行い、そこで得られた開発製品の製造、販売を当社が手がける想定となっております。

既に開発および生産技術開発に着手しており、今後マツダ様が展開される新しいハイブリッド車や、グローバルに導入されるバッテリーEV車などへの採用を見据えたものとなっております。こうした内容は当社がこれまで取り組んできた電動化に向けた取り組みによる成果と考えております。

当社では、現在の市場動向による電動化の流れは、事業拡大のチャンスと捉え、これまでのボディー制御系の電子製品に加え、インバータや電池モジュールをはじめとした、より高付加価値で高価格の電動化に関わる製品領域への展開を進めてまいりました。

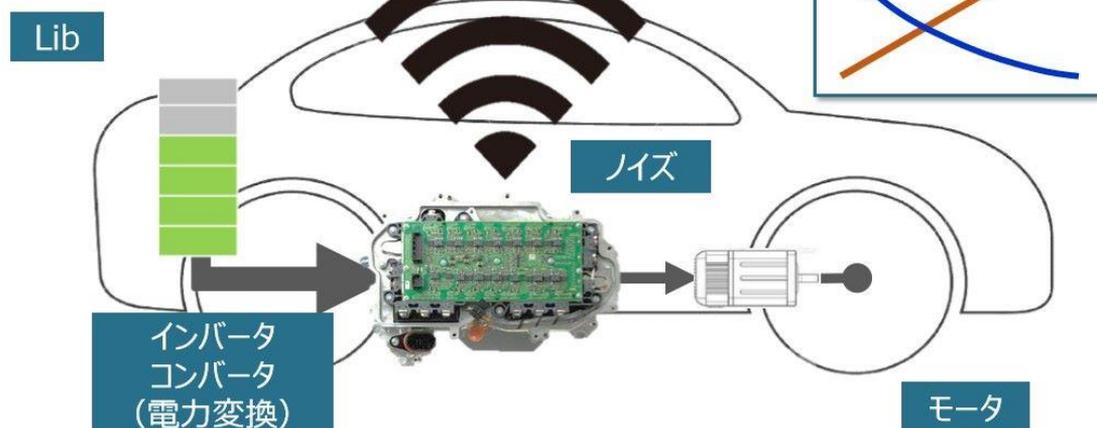
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

電子事業 – 取組み –

## パワーエレクトロニクス技術の追求

世界一の小型・高効率・低価格商品の実現に向けて



### 背反事象を解消することが最大課題

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

22

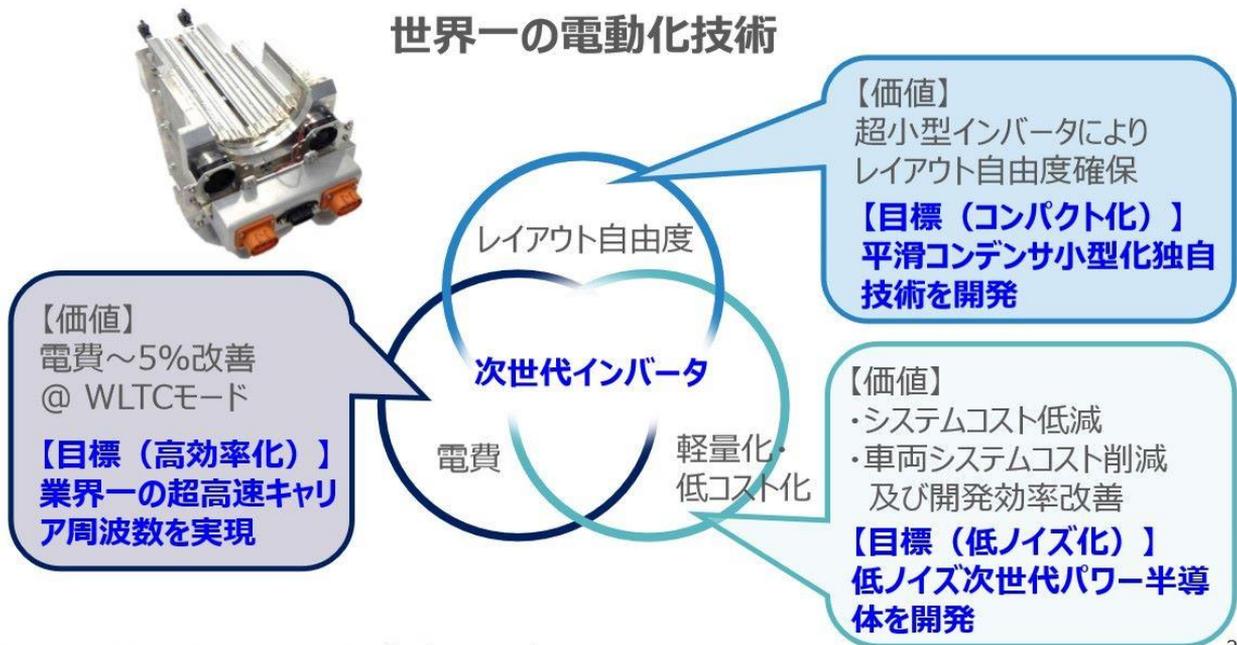
こうした中で、特にインバータの領域では独自技術を活かした製品開発を進めております。一般的に小型化や効率化を重視した場合、誤動作の原因となるノイズが発生しやすくなるという課題があります。インバータの開発においては、この効率とノイズという背反事象を根本的に解決する要素技術が鍵となってまいります。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

電子事業 – 取組み –

クルマのレイアウト自由度/電費/軽量化を高次元で両立させる  
世界一の電動化技術



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

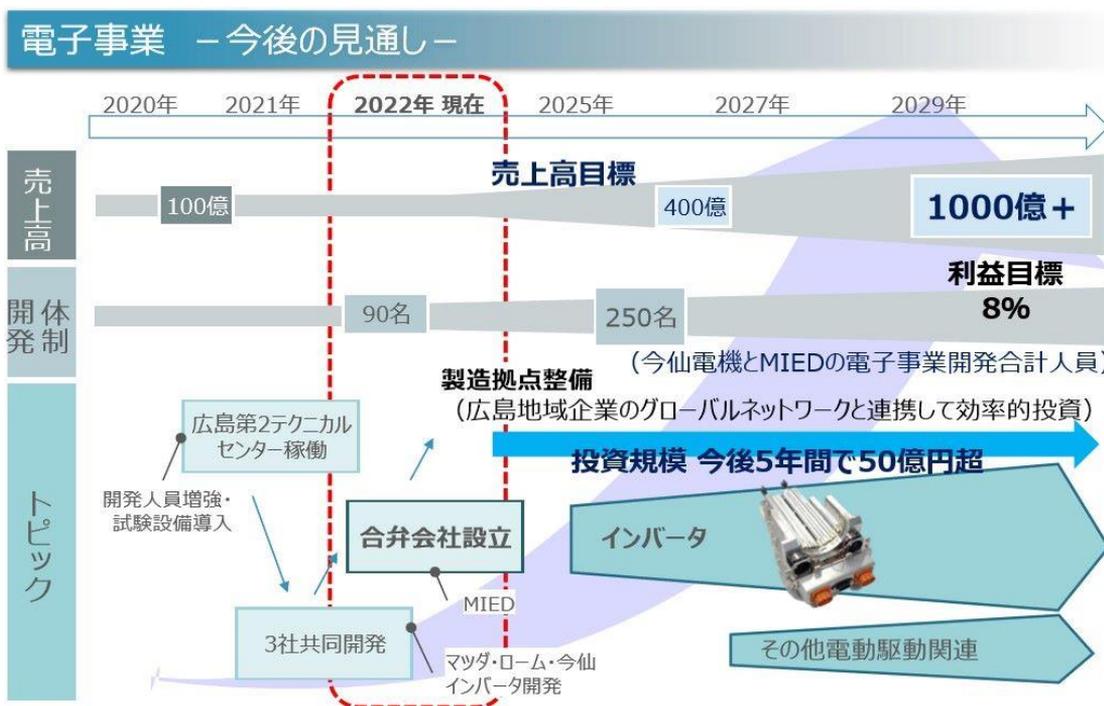
23

この分野では後発となる当社におきましては、新しい構造のパワーモジュールおよびスイッチング方式等の新技術を開発することにより、他社にない強みを発揮し、世界的な需要に応えていきたいと考えております。

これによる当社開発成果としての次世代インバータでは、電費の向上、小型化によるレイアウトの自由度確保、低コスト化、これらを目的として、各種特許技術をもとに製品化、OEM様の商品力アップをサポートするとともに、電気性能向上を通じて、環境問題の改善への貢献を目指しており、当社はこれを実現する独自技術で世界的な競争力を有していると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



### インバータをはじめとした電動車向けの製品により電子事業を第2の柱へ育て上げる

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

24

こうした活動を裏付けとしまして、今後の計画といたしましては、1,000億円規模の売上高を達成するため、開発体制を強化し、製造拠点を再構築してまいります。その上で、既存のボディー制御製品とともに、電動化関連製品の生産を拡大する、このようなロードマップを描いております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電子事業 – 事業目標まとめ –

## 2029年度

売上高目標： 1,000億円+

利益目標： 営業利益率 8%

開発人員： 250名 (今仙電機とMIEDの電子事業開発合計人員)

設備投資： 5年間で50億円超

※電子事業としての目標値となります。

### 中長期経営計画2029の最終年度までの達成を目指す

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

25

以上、ご説明いたしました電子事業拡大による業績見込みは、中長期目標として売上高 1,000 億円超え、そして営業利益率 8%の達成に向けて、開発人員を 250 名規模へ拡充し、製造拠点への投資として今後 5 年間で 50 億円超えの投資を推進し、各 OEM 様および市場の皆様の期待に応えてまいります。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

シート・電装事業 – 事業環境 –



地域供給能力の拡充と将来技術の共同開発に取り組み受注範囲を広げる

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

27

続きまして、当社の事業基盤でありますシート・電装事業についてご説明します。

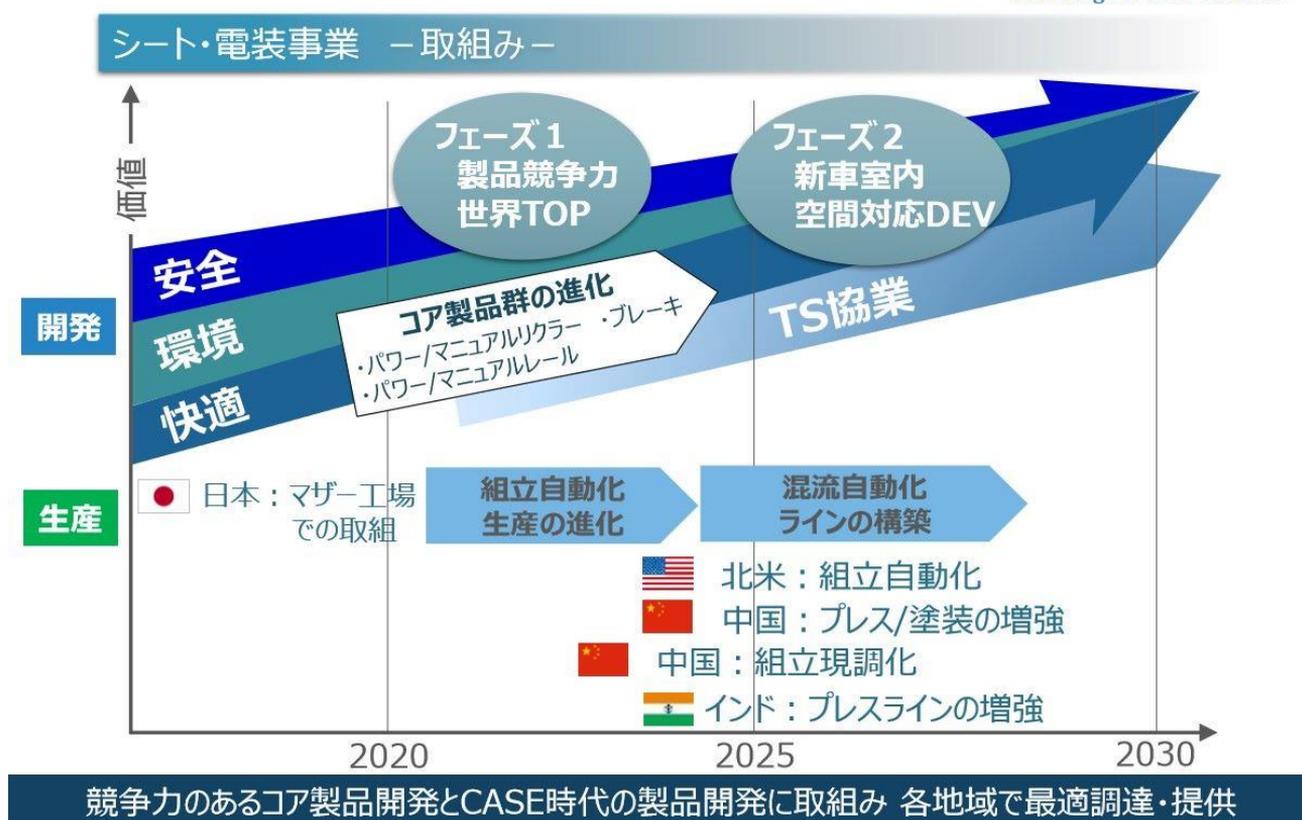
現在の主力事業であるシート事業を取り巻く環境としましては、安全評価の変化、軽量化の加速、また CASE で表される市場価値の変化などの環境変化が、より一層加速するものと予測されます。この変化する環境の中で、シートアジャスターに求められる価値観は大きく変化してきており、差別化が難しくなっていることに加えまして、競合先はアライアンス強化を図り、商権拡大を狙ってきております。また、中国、インドなどのローカルメーカーも台頭してきており、なお一層競争が激しくなっています。

当社でも、テイ・エステックさんとの資本業務提携により、開発、製造、営業などでも連携を図り、現地での生産を強化することで、受注拡大に向けた活動を一層活発化させてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

28

開発面では、得意とするコア製品群をより一層磨き上げ、ユーザーの乗り心地や操作性の向上を目指し、世界トップレベルの性能を追求します。

また、テイ・エステックさんとの協業においては、新しい車室内空間に対応したアジャスターの開発を進めることで、CASEにも対応したシート作りを創造してまいります。

生産面では積極的に進める自動化生産をさらに進化させ、効率の良い混流自動化ラインを構築し、世界の各拠点にも展開することで、競争力のある製品を地域ごとに生産できる体制を整えてまいります。

これらの施策により新規の受注を拡大し、シート事業の立て直しを図ってまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新事業 –コンセプト–

人生100年時代、『歩き方』を科学的観点から診断し、  
人々のQoL (Quality of Life) 向上に貢献



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

30

続きまして、現在第3の柱として事業の確立に向けて取り組んでおります新事業について説明します。

近年グローバルで長寿化が進み、先進国では人生100年時代が到来すると言われております。このような環境の中で私達は長年、産学連携し研究してきた歩くことに関する科学的ノウハウを活かし、2017年に無動力歩行支援機 aLQ を発売、さらに2021年には人の歩きを科学的に可視化する歩行測定システムを開発いたしました。

現在はこれらのリソースを活用した事業展開を進めており、まずは事業の確立、その先には医療業界、ウェルネス業界とも連携したヘルスケア事業への発展に向けて取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

新事業 – フェーズ1(2021年度~23年度)の取り組み –

2021年度	2022年度
<p>国内外にて研究成果を学会発表</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Unilateral non-electric assistive walking device helps neurological patients to improve gait patterns</b></p> <p>IMASEN © Boris Popovich &amp; Vera Sticker Faculty of Health Sciences, University of Applied Sciences Ludwig-Maximilians-Universität München</p> <p>This study aimed at investigating a non-electric assistive walking device powered by a cam spring mechanism (aIC, imasen) in neurological and orthopaedic patients. A 3D-instrumented gait analysis was conducted on a treadmill using optoelectronic, kinetic and kinematic data. Participants seem to benefit from the assistive walking device regarding gait and movement patterns, thus, it may help to improve patients' functional health status and quality of life.</p> <p><b>References</b></p> <p>Popovich et al. 2021a <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.008">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.008</a>                  Popovich et al. 2021b <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.009">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.009</a>                  Popovich et al. 2021c <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.010">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.010</a>                  Popovich et al. 2021d <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.011">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.011</a>                  Popovich et al. 2021e <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.012">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.012</a>                  Popovich et al. 2021f <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.013">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.013</a>                  Popovich et al. 2021g <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.014">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.014</a>                  Popovich et al. 2021h <a href="https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.015">https://doi.org/10.1016/j.gaitpost.2021.05.015</a></p> </div> <div style="text-align: center;">     <p>EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>歩行計測精度の信頼性・妥当性の検証と歩行の特徴的な傾向の分析</b></p> <p>松田雅弘<sup>1)</sup>、高橋武彦<sup>2)</sup>、斎藤孝<sup>3)</sup>、高代裕之<sup>4)</sup>、藤野誠次<sup>5)</sup>、高橋裕子<sup>6)</sup>、浅野武彦<sup>7)</sup>、松本真成<sup>8)</sup>、熊本清夫<sup>9)</sup>、三輪真輝<sup>9)</sup>、藤原健之 (MD)<sup>1,2)</sup>、代田浩之 (MD)<sup>1,2)</sup></p> <p>1) 旭大薬大 保健医療学部 理学療法学科                  2) 南山電機製作所                  3) 旭大薬大 理学療法科                  4) 旭大薬大 理学療法科                  5) 旭大薬大 理学療法科                  6) 旭大薬大 理学療法科                  7) 旭大薬大 理学療法科                  8) 旭大薬大 理学療法科                  9) 旭大薬大 理学療法科</p> </div> <div style="text-align: center;">   <p>設立1963 日本リハビリテーション医学会</p> </div> </div>	<p>自治体、スポーツ団体と連携し実証開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 愛知県犬山市と産官連携健康イベントを共同開催 (年3回)</li> <li>■ 愛知県岩倉市と「健康づくりの推進に係る包括的連携に関する協定」を締結</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>

2023年度の事業立ち上げに向け展開中

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

31

足元では2023年までのフェーズ1の取り組みとして、国内外の学会への研究成果の発表や、歩行測定システムのさらなる熟成に向け、社会貢献を兼ねた近隣自治体との健康イベントの開催、スポーツ団体と連携したデータの収集、実証実験を推進しております。これらの取り組みを元にノウハウの蓄積やビジネスモデルの構築を進め、2023年度での歩行事業立ち上げに向けて展開してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ESG推進 – IMASEN Sustainable Plan 2030 –

SDGsの世界観に共感し、持続可能な社会に貢献

**IMASEN Sustainable Plan 2030**  
～地球とIMASENを持続可能にする～

**E Environment - 環境 -**

- 気候変動への対応
- 環境マネジメント体制の構築
- 資源の有効活用
- パーバーレス化推進による森林保護

**S Social - 社会 -**

- 自動車社会変化への対応
- 誰もが働きがいを感じる環境整備
- 社会に寄り添う品質、技術の確立
- 社会との共生に資する活動

**G Governance - ガバナンス -**

- 公正、公平な経営体制
- リスクマネジメント体制

様々な社会課題の中から当社におけるマテリアリティ（重要課題）  
を抽出し、10項目のテーマを掲げて全社活動を展開

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

33

続きまして ESG の推進状況についてご説明します。

当社は SDGs の世界観に共感し、将来の世代に暮らしやすい環境、社会を引き継いでいくことが企業の責務であると認識しております。2021 年度からの中長期経営計画において、IMASEN Sustainable Plan 2030 を掲げ、2030 年でのありたい姿をイメージして活動し、社会に貢献しながら事業を発展させてまいります。

様々な社会課題の中から、当社におけるマテリアリティを抽出し、重点的に取り組むことで ESG 経営を進化させてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ESG推進 – CO2排出量削減に向けて –

フェーズ1 (2023) -10%	フェーズ2 (2026) -20%	フェーズ3 (2029) -50%
国内生産拠点再編 省エネ活動展開	高効率設備導入促進 低CO2生産ライン構築	低CO2製品の量産化 (材料/工法/設備)
再生可能エネルギー導入促進		



【取組状況】

- ◇全社にて省エネ活動を展開
  - ・電源管理徹底
  - ・エアーのムダ削減活動
  - ・高効率機器導入準備
- ◇再生可能エネルギー導入促進
  - ・太陽光発電導入準備
- ◇低CO2製品の開発
  - ・環境に配慮した材料
  - ・軽量化製品
  - ・エネルギー消費の少ない工程
- ◇TCFD提言への対応準備
  - ・気候変動対応の社内整合

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

34

様々な社会課題の中で気候変動問題は最重要課題の一つと捉えております。未来の地球、未来の人々のために美しく住みやすい環境を残す努力は企業の使命です。

そのために、当社は CO2 排出量削減の目標を掲げて活動を進めてまいります。2023 年までのフェーズ 1 においては、省エネ活動を中心に展開し、フェーズ 2 以降では、高効率機器への置き換えや CO2 排出量が少なく、環境に配慮した製品、生産ラインを生み出してまいります。

また、再生可能エネルギーの導入も継続的に進めてまいります。現在、TCFD 提言への対応の準備も進めており、積極的に開示してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ESG推進 – 取組み –

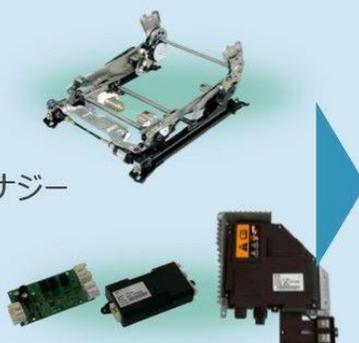
CO2削減に寄与する製品開発

現在、生産設備の動力として広く使われている圧縮空気に代わり、当社の機構技術と電子技術を生かした省エネルギーな動力システムを開発中。2023年に試作品を自社工場に導入予定。

機構技術  
(シートアジャスター)

✕ 保有技術のシナジー

電子技術  
(電子ユニット)



カーボンニュートラル

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

35

具体的な取り組みとして、最近の活動状況をいくつかご説明します。

環境に配慮した内容で、CO2 削減に寄与する新製品の開発です。現在、生産設備の動力源として、圧縮空気で動作するシリンダーが広く使われておりますが、この方式は電力消費とロスが多い点が課題となっております。この課題解決に向け、今仙が持つ機構技術と電子技術を組み合わせた省エネルギーの新しい動力システムの開発に着手しており、2023年には試作品を自社工場に導入する予定になっております。

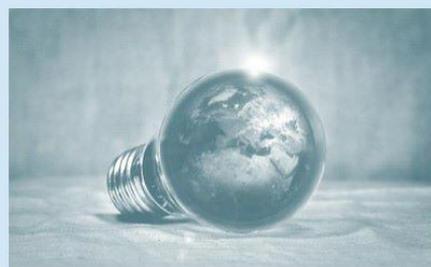
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ESG推進 – 取組み –

電力ピークシフトの取組み

今夏の電力逼迫への対応として8月、9月で勤務時間帯を1～3時間早めた勤務体制を実施これにより2ヶ月で73,554kWhのピーク時電力削減に貢献。



災害備蓄品の寄付活動

災害備蓄品の賞味期限切れ廃棄（フードロス）の低減、および社会貢献活動の一環として、賞味期限切れが近づいた食品を犬山市のNPO法人に寄付。



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

36

この夏の電力逼迫の対応として、8月と9月の2ヶ月間、勤務時間帯を1時間から、工場によっては3時間早めて稼働し、ピーク時の電力の低減に協力しております。

また、地域の社会貢献活動の一環として、フードロスの低減と合わせ、災害備蓄品の寄付を行いました。期限の迫った災害備蓄品を廃棄するのではなく、近隣自治体のNPO法人に寄付して有効に活用していただく取組みです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ESG推進 – 取組み –

働き方改革への取組み

より働きやすい環境づくりの取組みとして、2022年4月より2つの新制度を導入。

■ 積立有給休暇制度

年数の経過により消滅する年次有給休暇を一定の範囲で積み立て、万一の傷病時等に利用可能。

ねらい

- ・安心して働ける職場環境の形成
- ・有給休暇のより一層の取得

■ インターバル制度

前日の業務終了から翌日の業務開始まで一定の休息时间（インターバル）を確保。

ねらい

- ・社員の身体的負担を軽減し健康を確保
- ・ワーク・ライフ・バランスの充実

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

37

働き方改革の取組みとして、今年度より新たに二つの制度を導入いたしました。

一つは積立有給休暇制度で、消化しきれない有給休暇の積立を可能にし、万が一のときに利用できる制度です。もう一つは勤務間に一定の休息时间を設けることを規定したインターバル制度です。今後も社員が働きやすい環境作りに向けて労使一体となって、様々な制度の見直しを検討してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## DXの取組み

### ■ DXプロジェクトチーム始動

中長期経営計画2029の会社目標である「持続的成長に向けた事業の変革」の達成に向けて、効率的に全社的DXを推進していくために、プロジェクトチームを結成し、22年4月より活動を開始。

#### 取組の概要

- ・間接社員の2割に当たる130人をDX人材として育成し、企業のITリテラシーを底上げする
- ・デジタル改革により早期に営業利益率を安定させる（5-6%）
- ・25年度からはスマートファクトリーの確立に着手 など



#### 2029年のありたい姿

デジタル技術の活用により、信頼できる情報に基づき自発的に挑戦する企業文化、風土を確立し、企業価値を向上させる

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

39

続きまして DX についてご説明します。100年に一度の大変革期を迎えた自動車業界で、中長期経営計画の達成に向けては、従来からの取り組みや考え方だけではなく、デジタル技術による業務改革も不可欠なものとなっております。

この DX を効率的に進めるため、今年度よりプロジェクトチームを結成し活動を開始しております。取り組みの概要としましては、最終的に間接社員の2割に当たる130人をDX人材として育成し、その方々を中心に社内の力で今仙全体のITレベルの引き上げ、またデジタル技術を活用した利益体質の強化、スマートファクトリーの確立に向けて取り組んでまいります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



▶ 企業価値向上に向けた取り組み

業績の早期回復・向上が第一

中長期計画2029にて設定した3つの事業確立に向け、将来成長に向けて取り組む

項目	事業別	具体的施策
企業価値	シート事業	持続的な成長に向けた取組・・・コア技術の強化、電動化/自動化に向けた製品展開
	電子事業	電動化に向けた製品開発・・・インバータを中心とした開発進行中
	新事業	自動車以外の領域で事業確立・・・福祉機器の知見を活かした歩行ビジネス

©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

41

続きまして、株主還元の内容についてご説明申し上げます。初めに、当社の株価の状況でございますけれども、

既にご説明の通り、コロナ問題を機に業績が低迷している状況もあり、収益状況が株価に直結する形で株価が低迷する状況となっております。最近の株価水準では、PBRは0.2倍台に低迷していることや、当社が申請したプライム市場の上場基準に対し、流動株式時価総額が基準に満たしていない状況も考慮すると、当社としてもこういった状況を早期に改善する必要があるものと認識しております。

そのためにはまず、早期の業績回復、向上が第1の課題であると認識しており、足元の業績回復に取り組むとともに、先ほどご説明しました通り、将来に向けた三つの事業確立に向けて取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

【2022年11月24日 リリース】

**自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ**

(会社法第 165 条第 2 項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得)

1. 自己株式の取得を行う理由  
株主への利益還元水準の向上および資本効率の改善を目的としております。
2. 取得に係る事項の内容
  - (1) 取得対象株式の種類 当社普通株式
  - (2) 取得し得る株式の総数 1,150千株 (上限)  
(発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合 5.00%)
  - (3) 株式の取得価額の総額 850百万円 (上限)
  - (4) 取得期間 2022 年 11 月 25 日から 2023 年 11 月 24 日まで
  - (5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付け

(ご参考) 2022 年 9 月 30 日時点の自己株式の保有

発行済株式総数 (自己株式を除く)	23,018,832 株
自己株式数	456,520 株

一方で、現在の株価水準は放置できるものではないと考えていることから、株主の皆様への利益還元水準の向上および資本効率の改善を目的として、自己株式の取得を行うことについて、本日の取締役会にて決定し、公表させていただきました。

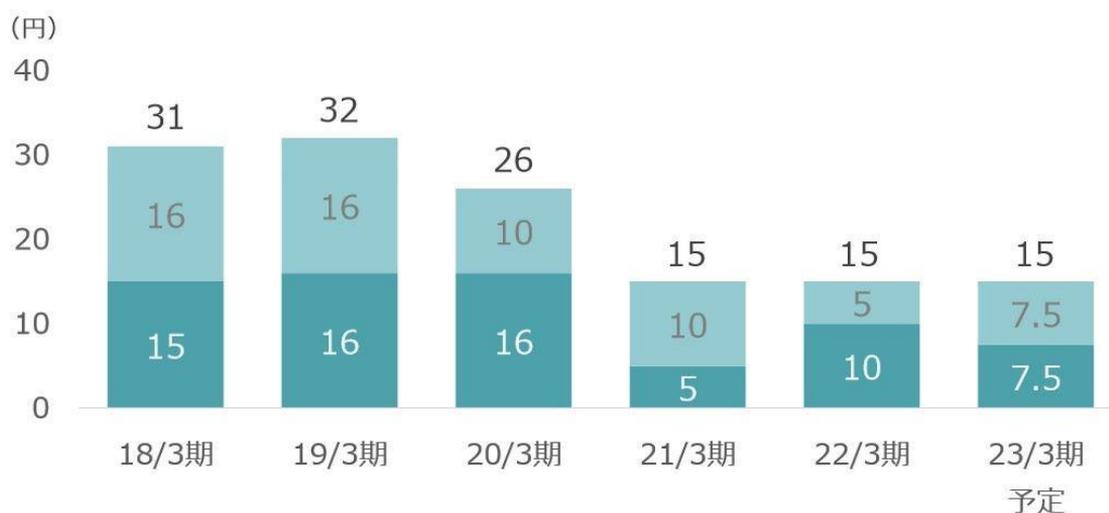
取得の規模としましては、自己株式を除く発行済株式の 5%に相当する 115 万株を株数上限とし、取得価格としましては 8.5 億円を上限としております。取得期間は明日より 1 年間としており、市場買付けにより実施する想定でございます。

**サポート**

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com

### 配当方針

持続的な成長を維持していく中で、財務体質と経営基盤の強化を図りながら、株主の皆様への安定的・継続的な利益還元を行う



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

43

これにより配当金と合わせて、株主の皆様への利益還元の水準を高めるものでございます。なお配当につきましては、上期同様、下期も不透明な環境が続くものと想定しておりますが、当社の配当施策の基本方針である安定的、継続的な利益還元に基づき、前期と同様の一株あたり 15 円の年間配当を予定しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

社長ブログ – Sakurai通信 –

<https://www.imasen.co.jp/blog/>  
社長ならではの目線でIMASENの情報を  
ピックアップして発信



2022.09.10 #15 名証IRエキスポ2022レポート  
2022.07.07 #14 新製品の仕舞い発表を行いました

#15 名証IRエキスポ2022レポート

皆さんこんにちは。  
今回は9月9日、10日と名古屋の吹上ホールで開催された「名証IRエキスポ2022」の現地レポートをお送りします。



公式Twitter

@Imasen Official  
迅速な情報拡散を狙ったTwitterでの  
情報発信



©IMASEN ELECTRIC INDUSTRIAL CO.,LTD. All rights reserved.

最後になりますが、当社のホームページでは、会社や製品の情報、決算等の各種開示情報の他に、私、櫻井の社長ブログページをご用意しております。通常の企業ホームページで発信する情報とは違った目線で、今仙についての様々な情報を取り上げておりますので、ぜひお時間のある時にご覧いただくと幸いです。

また、ツイッターでの情報発信もしておりますので、こちらもフォローいただくと幸いです。

昨年からスタートした中長期計画の中で掲げました合言葉、「Trust & Challenge」も社内に浸透してまいりました。フェーズ1の2年目を迎えた現在、改めて社会とステークホルダーの皆様へ選ばれる企業となるよう、全社一丸となって取り組んでまいりますので、今後もぜひ注目いただきますようお願いいたします。

長時間にわたりご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 質疑応答

---

**司会 [M]**：ご説明ありがとうございました。それではご案内の通り、まず会場にお集まりの皆様からの質疑応答に入ります。

ご質問、いかがでございましょうか。はい、ありがとうございます。

**藤原 [Q]**：日刊自動車新聞の藤原です。ご説明ありがとうございました。中長期ビジョンのところで、電子事業について2点と、あとシート事業について1点質問があります。

電子事業ですが、マツダさんとの合併会社のところ、合併会社設立したということで、既に取り組んでいらっしゃると思いますが、この合併会社による御社の電子事業29年度、売上高1,000億円超について、どれぐらいの規模で寄与して来そうかということ、もしイメージがありましたら教えてください。

また、事業の人員について、開発人員が、29年度に250人とのことですが、この人員の御社今仙電機さんとマツダさんとの合併会社のうち、人数の割合がイメージとして、もしあれば教えてください。

シート事業についてですが、パワーポイントの28ページ目です。取り組みのところで、混流自動化ラインの構築があると思いますが、それぞれ北米、中国、インドで工場の増強だったり設備の増強といったところを、2025年頃に取り組まれるのかと思いますが、現状の各国の工場の設備状況、増強の状況と、25年度この増強を含めて、どれぐらいの設備投資を見込んでいらっしゃるのか、もしあれば教えてください。よろしくお願いします。

**櫻井 [M]**：はい、ありがとうございます。最初のところで、電子に関しまして2029年1,000億という説明をしておりますけれども、それに対する寄与についてですか。

**藤原 [Q]**：そうですね、マツダとの合併ができたことによる寄与と伺いますか、どれぐらいの影響というか、プラスに働いてきそうかを教えてください。

**宮本 [A]**：はい。宮本からご回答申し上げます。まず、合併会社というのは開発会社でございます。それで生産につきましては、基本的には今仙が受け持つことになっております。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



今後マツダさんで生産される、中期ビジョンとして、全車に何らかの電駆システムを乗せるということで、当社が生産を受け持ちますので、この1,000億はかなり可能性が高い金額ではないかと考えております。

その次の合弁の開発人員29年度250名に対しましては、今現在当社開発人材90名おります。その中から、まずは20数名、合弁会社に出向して今回合弁会社を立ち上げましたが、当然マツダ様からも10名ぐらい開発の方が出向してきております。これから250名の内訳がどうなるかについては、今後になりますが、当然製品設計の方がメインになりますので、私どもから出す割合の方が高くなると予想をしております。

以上ご回答申し上げます。

**櫻井 [A]**：続きましてシートのお話です。混流自動化ラインについてですが、混流自動化ラインのことにに関してこだわった話でいうと、これはまず国内の工場から展開してまいります。25年に向けては、弊社の主力工場である岐阜工場の方で展開してまいります。

海外につきましては、今のところ、混流自動化ライン、当然それを目指していきますけれども、25年レベルでは、まずはその前の自動化が一つポイントになるかと考えております。そこは既に今現在も進めております。投資額に関しましては、今現在、ご回答を差し控えさせていただきたいと考えています。適切な時期に、またご説明できればと思います。

**藤原 [Q]**：ありがとうございます。電子の部分、追加で質問してもいいでしょうか。

**櫻井 [A]**：はい。

**藤原 [Q]**：基本的なことかもしれませんが、売上高目標の1,000億円超えは、これはほぼメインはマツダさんという認識でいいでしょうか。それとも他のメーカーさんも、何年ぐらいから入ってきそうかというイメージが、もしあれば教えてください。

**櫻井 [A]**：今現在マツダさんを主体にして、電子事業は業務事業を展開しているということではあります。ただし既に製品として行っておりますボディ制御系の電子製品関係、これも他社への拡販も展開しておりまして、既に対応いただいているものがあります。

今後の電動駆動システムに関しましても、まずはマツダさんと一緒に、マツダさん向けの車種に展開していくことを目指して展開していきますけれども、これがグローバルで他社にも、グローバルなOEMさんにも対応いただけるような、そういったものを目指して開発をしていくスタンスでございます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



**藤原 [M]**：わかりました。ありがとうございます。

**司会 [M]**：ありがとうございました。会場の皆様で他にご質問いかがでございましょうか。ございませんでしょうか。無いようでしたら、オンラインでご参加の方からのご質問に移ります。ご質問については井上様に取りまとめられます。井上様よろしくお願いたします。

**井上 [Q]**：はい。それではオンラインでいただいております質問の中から、質問を取り上げさせていただきます。

株主還元についてお聞かせください。自己株取得の発表をされましたが、業績を見ると厳しい状況の中での話と感じます。

背景として、株主還元についてどのようなお考えがあるのか教えてくださいという質問をいただいておりますのでよろしくお願いいたします。

**櫻井 [A]**：はい。先ほどご説明しました通り、当社では東証のプライム市場の上場基準、これの適用に向けて、流通株式時価総額の課題を抱えております。現在の株価については、先ほども説明した通り PBR で 0.2 倍程度と、著しく低迷した状況がございまして、この状態は早期に解決、改善する必要があると考えております。

株価低迷の要因として、やはりコロナ環境下での収益の悪化が、一つわれわれにとっても大きな要因ではありますが、こういった状況の中ではありますが、自己株式取得は株主還元の観点と、それから資本効率の改善の要因において有効な手段だと判断をしまして、今回検討してまいりました。

引き続き厳しい状況はありますが、事業に関しましてもコロナ等に関しましても、徐々に回復の兆しが見えておりますので、今回は適切なタイミングであると判断して決定したものでございます。

電子事業生産投資、成長に向けた投資が必要となってまいりますけれども、早期業績回復を目指して、配当を含めた株主還元の推移を徐々に高めていきたいということが今回の狙いでございます。以上回答させていただきます。

**井上 [Q]**：はい。続きまして、来年以降の事業環境について、半年前と見方がどう変わっているのか詳しくお聞かせくださいというご質問をいただいております。よろしくお願いいたします。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



**櫻井 [A]**：半年前と見方がどう変わっているかということですが、まず事業環境で、大きくはやっぱりコロナによる影響などがあるかと思えます。この辺のことが来期どうなるかについては、大きく変化がないのではないかと捉えているというのが、今のわれわれの現状でございます。

既に来期の計画を今策定しておりますけれども、今期同様の状況が考えられるのではないかと、今、事業計画を検討しているところでございます。

その他、電子の部分につきましては、半年前は、まだこの辺の話ができておりませんでしたけれども、今言ったことの計画を推移しておりました。計画通りに進めていくといった形で、同様に展開していくものと考えております。

以上、ご回答させていただきます。

**井上 [M]**：ウェブを通じての質問につきましては以上でございます。

**司会 [M]**：どうも井上様、ありがとうございました。それでは最後に櫻井社長様よりご挨拶をいただいてよろしゅうございましょうか。

**櫻井**：はい。本日はどうもお忙しい中ありがとうございます。われわれの大きな事業の改革として目指しているところ、3本足の安定した事業構造を作りたいということで、中長期経営計画 2029 を発表しております。

シート事業がほぼほぼ 80%から 90%という事業構造から、3本足の、3等分した事業構造に変えるということで、このたび発表しました電子事業、これが大きくまず寄与するものと考えております。これをまず一つきっかけとして、さらに先ほどご説明しました、新事業についても、積極的に開発を進めております。

何とか、3本足にすることによって、一つの事業が何か影響を受けたとしても、他の事業で支えるという構造をしっかり作っていきたいと考えております。そういった環境の中で、しっかり社会貢献すること、それから ESG に関するところの経営、これもしっかり推進していくことで、社会貢献していく、さらに選ばれる企業になっていきたいと考えておりますので、引き続き皆様からもご意見等いただきますよう、よろしく申し上げます。

どうも本日はありがとうございました。

**司会 [M]**：ありがとうございました。それではこれをもちまして本日の説明会を終了させていただきます。どうも櫻井社長様そして堀部様、宮本様、井上様、本日は誠にありがとうございました。

**櫻井 [M]**：ありがとうございました。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



司会 [M]：ご参加の皆様、どうもありがとうございました。

[了]

---

### 脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

